

西日本を中心に マダニ に咬まれることで起こる感染症『重症熱性血小板減少症候群(SFTS)』の報告が増えています。マダニは、春～秋にかけて活動期のため、今の時期は注意が必要です。

★ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは？

2011年に、中国の研究者らによって発表された新しいウイルスによるダニ媒介性感染症のことで、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。2013年1月に国内で海外渡航歴のない方が罹患していたことが初めて報告され、2015年5月現在122人の患者が発生しています。60～80歳代の方の罹患が多く、死亡例も34人となっています。

また、西日本以外でも、SFTSウイルスを保有したマダニが見つかっており、全国的に注意が必要です。尚、SFTSウイルスに対しての有効なワクチンはありません。

★ 症 状

ウイルスを保有したマダニに咬まれてから1～2週間程で発症します。症状は発熱、消火器症状(食欲低下・吐気・嘔吐・下痢・腹痛)が中心です。時に頭痛、筋肉痛、リンパ節の腫れ、呼吸困難、歯茎からの出血や下血、意識障害等もみられます。但し、マダニに咬まれても気がつかない、刺し口が見当たらない事もありますので、症状がでた時は直ぐ受診しましょう！

★ 診 断

マダニに咬まれた後に上記症状が有り、採血検査によって血小板・白血球減少、血清酵素異常(AST・ALT・LDH・CKの上昇)が、確認された場合にはSFTSの感染を疑います。確定診断は、ウイルス学的検査を行います。

★ 治療方法

有効な抗ウイルス薬等の治療方法はありませんので、症状に対しての治療が主体となります。

★ もしマダニに咬まれたら・・・

マダニは、固い外皮に覆われた比較的大型のダニで、吸血前は3～8mm、吸血後は10～20mm程度と言われています。皮膚にしっかりと口器を突き刺し、セメント質を出して肌に固着することで、数日から長いと10日間以上吸血します。無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまう恐れがあるため、皮膚科等の医療機関で処置してもらいましょう。

また、咬まれた後は、数週間体調の変化に注意し、症状がある場合は医療機関で診察を受けるようにしましょう。

★ SFTSの予防方法

マダニは、森林や野山、裏庭、畑、あぜ道等に生息していますので、マダニに咬まれないようにすることが最も重要です。服の上からは咬まれないので、野外活動時には、腕・足・首等に露出の少ない下記の対策を心掛けましょう！

★ 身を守る服装！

- ① 首には、タオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用する。
- ② シャツの袖口は、軍手や手袋の中に入れる。
- ③ シャツの裾は、ズボンの中に入れる。
- ④ ズボンの裾は、靴下や長靴の中に入れる。

★ 野外活動時の上着や作業着は、屋内に持ち込まない！

ガムテープ等を使用し、服についたダニを取り除く方法もお勧めです。

★ 虫除け剤を利用！

日本では、衣服に塗布して利用するツツガムシの虫除け剤が市販されています。マダニを完全に防ぐわけではありませんが、一定の効果が確認されていますので、その他の予防方法と組合せて対策をしましょう。また、野外活動後は、必ず入浴しマダニに咬まれていないか身体をチェックするように心掛けましょう。特に腋の下、足の付け根、手首、膝裏、髪の毛の中などがポイントになります。

今回は、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に焦点を当てましたが、日本にはその他にも、回帰熱、日本紅斑熱、ライム病などマダニによる感染症があります。マダニに咬まれないよう野外活動時には、まず服装に気を付けましょう！但し、気温が高い中、身体を衣服で覆うこととなりますので、熱中症予防も併せて行うようにしましょう！